

日本初、全国の駐車場や空き地を車中泊・テント泊スポットに 大手保険付きのシェアリングサービス「Carstay」本格稼働 車中泊スポットを検索・予約・評価が可能に。訪日客向けに英語版も提供開始

カーステイ Carstay株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：宮下 晃樹）は1月30日より、全国各地に点在する駐車場や空き地を車中泊・テント泊スポットとして旅行者に貸し出すシェアリングサービス「Carstay」の日本語と英語版ウェブサービスを本格稼働いたします。

国内外の旅行者はスマートフォン、タブレット、パソコン向けの専用ウェブサイト「Carstay（<https://carstay.jp/>）」上に車中泊・テント泊スポットとして登録された駐車場や空き地を検索・予約、決済し、評価を行うことができます。

全国各地の駐車場や空き地を車中泊やテント泊スポットとして可視化、一気通貫でシステム化させ、旅行者に有料で貸し出すシェアリングサービスは日本初です。

「Carstay」は主に以下4つの機能で構成されています。

① 検索	② 予約	③ 決済	④ 評価
			
<p>自身の位置情報から車中泊・テント泊スポットを検索。地域・宿泊可能日時で絞り込み、検索することもできます。</p>	<p>検索後、ステーション詳細が表示されます。宿泊期間と、その間に使用したい設備を選択して、予約することができます。</p>	<p>クレジットカード（現在ビザとマスターカードのみ対応）での支払いが可能です。今後、支払方法を拡充予定です。</p>	<p>取引終了後、車中泊・テント泊スポットの所有者と旅行者は、5段階で両者の評価を行い、コメントを残すことが可能です。</p>

「Carstay」に登録した駐車場や空き地の所有者と利用者は、Carstayが三井住友海上火災保険株式会社に加入している「車中泊保険」を付保することができ、設備の破損、利用中の怪我、利用者同士のトラブル、騒音などを補償します。問い合わせは多言語に対応します。現在、全国各地の一般家庭、駐車場、RVパーク、ゲストハウス、商店、スーパー、キャンプ場、ゴルフ場、寺社仏閣などの所有者が「Carstay」に登録しています。

全国の民家や宿泊施設、ゴルフ場、レストラン、24時間運営のスーパーやコンビニ、「道の駅」（約1145か所）、RVパーク（約120か所）、オートキャンプ場（約4000か所）、サービスエリア、公園などの駐車場や空き地の所有者や事業者は、未使用もしくは今後有効

活用したい駐車場や空き地、トイレ、シャワー、インターネット、温泉、スーパーなどの施設や周辺の設備情報を「Carstay」に登録、車や二輪車を活用する旅行者向けに有料（500円～（上限設定なし）（税込み））で貸し、さらに特産物の製作・農山漁村の仕事や祭りなど、地域ならではの体験を提供する「文化体験」も登録することができます。

登録は、車1台分のスペースに年に1度泊まれ、24時間使えるトイレが500メートル以内にあることが必要条件です。

具体例としては、所有者は「Carstay」を通して、空き駐車場を車中泊用に1日1500円で、毎日1人の旅行者に貸し出したとすると、年間約33万円（Carstayの販売手数料40%）の収入を得ることができます。

人口減少や東京一極集中が進む中、全国各地の地方には、使われていない未使用の空き地や駐車場が増えています。その影響で、各地には、“眠ってしまった”魅力的な観光資源も多く存在します。車やキャンピングカーなどを使う旅行者は今後、「Carstay」を活用することで、各地どこにでも泊まることができ、有名な観光地だけでなく、地方の新たな観光スポットや文化の魅力を再発掘することができ、地方経済の活性化にもつながります。

一般社団法人日本RV協会によると、国内キャンピングカー保有台数は、10万6千2百台となり、過去10年間で2倍になりました。また、レンタルキャンピングカーを提供する大手・キャンピングカー株式会社は、訪日外国人のレンタルが「成田空港営業所、新千歳空港営業所を筆頭に、利用者が2017年度比1000%以上（2018年12月）に急上昇」と発表しています。車で旅して車中泊する国内外の旅行者が増えている傾向にあります。

しかし、昨今、車旅行者は「道の駅」などの駐車場を、車中泊スポットとしてだけでなく、自身の自宅のように利用し、駐車場のトイレで洗濯物を洗い・干したり、テーブルを出し炊事や食事をしたり、ゴミを放置するなど、マナー違反の行為が問題視されています。

「道の駅」を含め、多くの無料駐車場は本来、一時的な休憩場所であり、正式な「車中泊スポットではない」という声もあり、一部では「車中泊禁止」の張り紙をする駐車場すら出てきています。車中泊できるスポットの有無がわからず、不安なまま夜を過ごす車旅人もいます。

車中泊が可能な車を利用した国内外の旅行者が増加し、そのニーズが高まっていますが、これまで、車中泊スポットの規則や宿泊が最適に管理・可視化されておらず、プラットフォーム化されていませんでした。

「Carstay」を活用することで、これら課題が解消され、訪日外国人含め、車中泊が安心・安全に保証され、日本での車旅を楽しむことができるようになります。

また、ゴールデンウィーク10連休（2019年4月27日～5月6日）、ラグビーワールドカップ2019日本大会（9月20日～11月2日）、東京オリンピック（2020年7月24日～8月9日）、パラリンピック（8月25日～9月6日）を前にして、地域への訪問者に対して公共交通や宿泊施設が足りないという課題も顕在化しています。

これらイベント時期においても、「Carstay」を通じて、新たな旅行スタイルとして、多くの駐車場や空き地が存在する地方への車中泊型の旅行を提案することで、地方経済の活性化が見込めるように取り組んでいきます。

なお、現在、長野県や山梨県を中心に、地方自治体との協力が進行しています。今後もその他 地方へのプロモーションを展開し、「Carstay」スポットの拡大を目指します。

Carstay は、5 年後に 100 万人の登録会員（所有者と旅行者の登録者数 合計）、2020 年東京オリンピックやパラリンピック大会までに、車中泊スポット 1,000 か所の登録数を目指し、国内外の旅行者と地域の架け橋となるプラットフォームの構築、その後も日本が持続的に観光客を呼び込めるよう観光スポットのシステム化を図ります。

Carstay は 2019 年夏、iOS と Android のスマートフォン専用アプリを公開する予定です。

■ Carstay について :

Carstay 株式会社は、「MaaS (Mobility as a Service)」において、車旅や車中泊版のシェアリングサービスのプラットフォームの提供を行っています。第 1 弾目として、車中泊拠点の増設と、拠点周辺に関する車旅情報の発信を行うことで、旅行者と地域との接点をつくります。その後、事業会社、地方自治体との連携を通じて、旅行者の快適な移動と感動体験を「Carstay」を介してデザインします。

■ 代表取締役 宮下 晃樹（現在 26 歳）のプロフィール :

- ・ 1992 年 3 月生まれ
- ・ 2014 年 : 慶應義塾大学 経済学部卒業。有限責任監査法人トーマツのトータルサービス事業部にてベンチャー支援に従事。
- ・ 2016 年 : 公認会計士として独立。NPO 法人 SAMURAI MEETUPS を創業し、地方へのインバウンド誘致を通じた地域振興を推進。
- ・ 2018 年 6 月 : Carstay 株式会社を設立

■ 本件に関する報道関係からの問い合わせ先 :

Carstay 株式会社 広報 ^{なかがわ} 中川 ^{いくま} 生馬 ・電話 : 080-3205-2335 ・E-mail : i.nakagawa@carstay.jp

※お客様からのお問い合わせ先 : Carstay 株式会社 ・電話 : 03-3546-9329

< 参考資料 : Carstay の概要図 >



※「Carstay」のイラスト・イメージが必要な方はお問合せください。リンク先をお送りいたします。